

さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡—太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-34213046

◇
<https://sanken-hiroshima.org/>

一口メモ

▼植物は強し
夏の豪雨災害と猛暑の影響で木々が痛み、紅葉する前に枯れ散り、自然の厳しさをくぐり抜けた植物は、何事

てしまうのではと心配されたが、今年も鮮やかに色付いた。自然の厳しさをくぐり抜けた植物は、何事

町議の吉見さん／助産師の小野さん

安芸太田への思い語る

加計のギャラリイ mmp Project で開かれた初代会合には二十人が集まった。登壇者はカエルの着ぐるみでイベントを盛り上げる町会議員の吉見茂さんと助産師の小野里子さんが登場した。今後、隔月で定期的な開催を予定している。さんけんとFMC（ファシリテーションみんな）の共催。

エールを送った。今回は十二月十三日、中筒賀の旧井仁小学校で開く。「楽しい100人」プロジェクトは二〇二二年、北海道で始まった。二年後にスタートした広島では四年目の今年十一月、百人を達成する。

三段峡を知るツアー

メニュー多彩

安芸太田町の地域おこし協力隊員だった県中山間地域振興課の河内佑真さんが企画したツアーが十月二十八日、水梨口―正面口間であった。参加者は県立広島大関係者や県職員ら七人、さんけんメンバーがガイドした。視点を変えた景観の体験、水辺の生物や小さな花、コケの観察、たたらと広島デルタの鉄産業との歴史など多彩な内容だった。

深入山 寄主アリ調査 NPO 法人日本チョウ類保全協会の中村康弘事務局長を招いて十月二十五日、深山で絶滅危惧種のチョウであるゴマシジミに寄主するアリの生息調査をした。来年も再度実施し、寄主アリを確定して、環境の保全方針を決める予定。

三段峡キノコ調査会

日本菌学会会員の新高正信さんを講師に十月十一日、三段峡でキノコ調査会を開いた。概要講義の後、探勝路で採取方法や注意点を聞いた。日本名のない可能性があり、採取方法を注意点を聞いた。

「あきおおたの楽しい100人」がスタート

地域の人と人をつなぐ「あきおおたの楽しい100人」の取り組みが10月11日、スタートした。地域で活動している人がそれぞれの取り組みや地域への思いを15分間で発表するイベントで、初回は町会議員の吉見茂さんと助産師の小野里子さんが登場した。今後、隔月で定期的な開催を予定している。さんけんとFMC（ファシリテーションみんな）の共催。



町づくりへの考えを話す吉見茂さん

吉見さんは「せつかくの自然を生かした子育てができる町、若者を支援する町にしたい」と、町づくりへの考えを強調した。小野さんは「住んで知った安芸太田の楽しさを伝えるお手伝いをしてほしい」と、抱負を語った。

参加した加計印刷の大神朋子さんは「とても楽しい会だった。ぜひ続けてほしい」と話した。「広島楽しい100人」実行委員会からは三人が参加、「こんな小さな町で取り組むのがすごい。」と

「秘境」ツアーはさんけんさんけんが担当して「切り」とひろしまジンドウとのコラボ事業で十七日、十八人が探勝路を歩いた。午前は

「秘境」ツアーはさんけんさんけんが担当して「切り」とひろしまジンドウとのコラボ事業で十七日、十八人が探勝路を歩いた。午前は

南峰と歩く

15

木串(きぐし)

「もし霊あらば」水没免れる

「黒淵もし霊あらば!とでもいいところであつた約一年半後である。」と結んだ記事が、写真付きで新聞に載った。見出しは「黒淵」の危機?」。

風景変えた大崩落

証拠はないが、記事は南峰が新聞社に持ち込んだ

不確かな情報かもしれないが、堰堤(ダム)建設計画の存在を伝え、牽制している。日付は一九三五年四月十四

峰が新聞社に持ち込んだか、書かせたに違いないと考える。「もし霊あらば」の表現は他でも度々使っている。

「近頃運材夫がよく不思議な死に方をするといいので

「近頃運材夫がよく不思議な死に方をするといいので

第2の故郷へ恩返し

河内 佑真さん

この人



2013年から3年間、地域おこし協力隊員として安芸太田町に赴任した。特産の祇園坊柿を使った「チョコちゃん」を地

域のおばあちゃんたちと商品化。「おみやげグランプリ2015」で、準グランプリを受賞した。任期満了後は、県中山間地域振興課に勤務し、地域で活躍する人材をサポートしている。「自分が人の役に立てれば、安芸太田町のPRにつながる」と、公私にわたって第2の故郷へ恩返しを続けている。三段峡を「視座を高めてくれる場所」として広めたいと話す。さんけん活動の頼もしいパートナーだ。(炎)